自然生態園では

●インタープリターボランティアがお待ちしています

ガイドウォーク 土日祝

午前の部／10:30〜12:00
午後の部／13:30〜15:00
展示館にて30分前より受付け（無料）

里山の自然のしくみ、人と自然の関わり・つながり、歴史など、生態園の魅力を、季節ごとのテーマにそって、楽しく解説します。

団体向けプログラム

遠足、環境教育、研修など学校や団体利用にも対応いたします。2週間前までにお申し込みください。

里山のくらし 夏〜秋編

この地は、「竜頭」と呼ばれています。名前の由来は、「今昔物語21巻」に出てくる満濃池の竜神の休み場所であったとか、近くの山の中に竜の頭に似た岩があったとかにちなんでつけられたようですが、定かではありません。腕時計などのリューズは、れっきとした日本語「竜頭」なのです。もともとは、つりがねをつり下げる部分が竜の装飾を施されているところからきているのですが、つりがねの円孤から飛び出した形が腕時計のねじに似ているところから転用されたものです。

この地の歴史をたどれば、古墳時代から人が生活をしていた形跡があり、江戸時代には高松藩の鷹狩り場としてその関係者の屋敷もあったようです。明治期には、旧陸軍の演習場となり、大砲などの実弾訓練が行われていました。初代師団長が、乃木希典であったことは有名な話です。

演習場が廃止され昭和初期から移り住む人が増え、第二次大戦後開拓団が入植し、約30世帯の集落が誕生しました。タバコ栽培では優良な産地でしたが、高台であるために水不足で水田耕作はままならず、生活は貧困だったそうです。不足する水は、満濃池から購入し、ポンプで送水しました。このときの灌漑施設は、当時としては珍しい空中水道方式でした。その面影は、今でも満濃池東岸にかいま見ることができます。

高度経済成長期に入り、国をあげての開発ブームに乗って地域ぐるみで民間会社に買収され、昭和40年代半ばには全戸が離村しました。長い開拓の歴史に終止符が打たれたのです。

昭和58年、国はこの地を公園用地として買収を始め、翌年から造成工事に着手し、今日に至っています。

みんなの公園・みんなの自然

●動植物の採取は禁止です

貴重な生態系を守るために、生きものを傷つけたり園外へ持ち出したりしないようにお願いします。

●園路からはずれないで下さい

石垣や田んぼの畦に入りこむと、足もとが崩れて危険です。また、そのような場所にもたくさんの生き物が住んでいます。決められた園路を歩きましょう。

●ゴミはゴミ箱へ

ゴミは決められたゴミ箱へ。できれば持ち帰りましょう。

●自然生態園内は禁煙です

喫煙所は、生態園入り口の一ヶ所です。禁煙にご協力下さい。

●自然生態園への出入り口は一ヶ所です

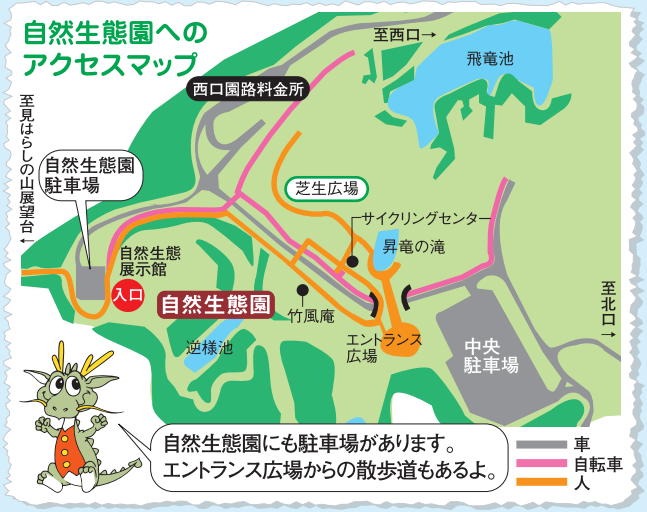
自然生態園の出入り口は、展示館の案内所だけです。通り抜けはできませんので、ご了承下さい。

●ペットの同伴はご遠慮下さい

生態系への配慮のため、ペット同伴の入園はご遠慮下さい。

◆自然生態園の利用に関するご意見、お問い合わせ◆

〒766-0023 香川県仲多度郡まんのう町吉野4243-12
TEL(0877)79-1807　FAX(0877)79-1704



2004.06.5000

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK 本紙は、大豆油インキで印刷しています。

自然生態園 夏▶秋 イラストマップ

逆様池

チョウトンボ

ナガエミクリ

国土交通省
国営讃岐まんのう公園

里山のくらし

●里山とは?

里の山と書いて「さとやま」と読みます。1960年ごろ京都大学農学部の先生が考案した造語です。農山村の人たちが薪などを採りに日常的に出入りしていた山、「山里」をひっくり返して「里山」と呼んだのが始まりです。人里という言葉があるように「里」は、人家が集まり、人が生活をしている場所です。

●里山の環境

里山とは人家を取り囲むごく身近な自然なのです。そこで生活する人・屋敷・雑木林・竹林・谷戸田・畑・農道・小川・ため池などで構成され、それぞれがひとつながりになった環境です。

周囲の森は、人里から遠く離れた深山にある原始の森ではありません。また、天然記念物に指定されているような、珍しい生きものが住んでいるわけでもありません。しかし、里山には、さまざまな生きものがいて、自然環境がとても変化に富んでいます。里山の環境は、そこに住む人々が長い年月をかけて、代々農業を営むうちにできあがったものです。

●人と自然の共存

では、人の手が加わっているのになぜ豊かな自然が保たれているのでしょう?現在、日本だけでなく世界中から豊かな自然がどんどんなくなっています。

この「豊かな自然」とは、いったいどんな自然をいうのでしょう?それは、どのようにしたら、次の世代に残していけるのでしょう?今日は、そんなことを考えながら…地質と水が魔法をかけた自然環境を存分にお楽しみ下さい。

里山の動物たち

**夏から秋にかけて、自然生態園では
さまざまな昆虫に出会うことができます。**

●昆虫たちに出会える場所

ハンミョウ

南の谷でよく出会うのがハンミョウ。園路を歩いていると足元から飛び立って少し先に降りる…という行動をくり返し、まるで道案内をしているように見えるので「道教え」と呼ばれたりする昆虫です。

南の台地ではツマグロヒョウモンやクロアゲハなどのチョウが飛び交い、周辺の雑木林ではヒカゲチョウやオオムラサキの姿を見かけることもあります。

ツマグロヒョウモン

雑木林のなかにある樹液に出る木には、夜になるとカブトムシやクワガタムシの仲間がやってきますが、昼間はスズメバチが来ていることが多いので気をつけてください。

田んぼや池の水面ではアメンボやミズスマシが泳ぎ、水中では小型ゲンゴロウやタイコウチ、ミズカマキリ、ドンボの幼虫（ヤゴ）たちが暮らしています。

●里山の「いのち」のつながり

タイコウチ

動物たちは他の動植物を食べないと生きてゆけません。昆虫もそうです。たくさんの「いのち」が昆虫をささえ、昆虫もまた他のたくさんの「いのち」をささえています。食べられなかった動物たちも最後は死んで土にかえり、植物の育つ栄養になります。「いのち」は、つながっているのです。

里山の植物たち

●自然生態園の水辺の植物

ため池の多い讃岐では、いろいろな水辺の植物が生育していました。

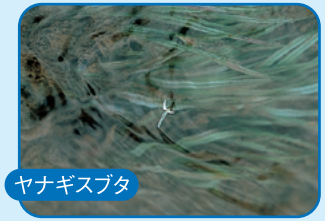
時代の移り変わりと共に、ため池をとりまく環境は変わってしまい、30～40年以前は、どこででも見られた水草も、あまり見られなくなってしまいました。

自然生態園の中心である逆様池周辺は、当時の環境が保たれており、今では見られなくなった水草も観察できます。

●自然生態園で見られる水草

ジュンサイ

◆ジュンサイ
逆様池では、水面に広がりすぎ、他の水草の生育をさまたげています。ゼリー状の分泌物に覆われた新芽は、お吸い物などに使われます。


ヤナギスブタ

◆ヤナギスブタ
田んぼの雑草であったため、農薬などの影響で減ってしまいました。スブタとは、名古屋地方の方言で乱れた髪のことをいいます。

イヌタヌキモ

◆イヌタヌキモ
微生物を捕まえる袋を持ち、水中をただよう食虫植物。7月から9月頃、水の上に花茎を伸ばし、黄色い花を咲かせます。

ミズオオバコ

◆ミズオオバコ
水中にオオバコのような葉を広げ、夏から秋にかけ水の上に花茎を伸ばし、ピンクの花を咲かせます。

アギナシ

◆アギナシ
矢尻型の葉を広げ、中心から高く伸ばした花茎に、3つずつ3弁の白い花を咲かせます。おせち料理に使う、クワイの仲間です。

自然生態園イラストマップ 夏▶秋

で記された生きものは危険ですので、ご注意ください。

※ここに見られるのは、6月～9月の生きものです。
※マップ・イラストは原寸の縮小ではありません。
※開花時期は過去の観察記録を基にしております。
生きものですので、気候によってはこの時期に観察できるとは限りません。